

# つげ 櫛

日本伝統の髪型を守る



もり しんご  
森 信吾

高校卒業と同時に、明治36年創業の櫛留商店の三代目となる。平成18年、厚生労働大臣表彰「現代の名工」を受賞。平成29年には、天皇陛下より「黄綬褒章」を授与された。



## つげ櫛とは

木目が細かいツゲの木を使って作られた日本の伝統的な櫛のことです。力士や歌舞伎役者などの、日本伝統の髪型をつくるのに欠かせないもので、源氏物語にも記述があります。

## つげ櫛の種類

芝居の世界で使われるつげ櫛は、男性用や女性用、お母さん役用、娘役用など用途が多く、形は何百種類にもなります。

それに対して、相撲用の櫛は下の4種類です。

「荒櫛」…もつれをほぐす

「すき櫛」…砂や汚れを取り

「揃櫛」…髪をときそろえる

「前かき櫛」…十両以上が結う大銀杏に使われる



荒櫛



すき櫛



揃櫛



前かき櫛

# つけ櫛ができるまで

- ①樹齢数十～百年以上の板を鹿児島県で仕入れ、軒下で1年間陰干しにする。

木が含んでいる水分が抜けて、  
木に曲がりや歪みが出てくる!



- ②曲がった板同士を鉄製の枠で締め上げ、煙で3カ月ほどいぶした後、室内で3カ月ほど乾燥させる。小さい板なら2～3年、大きい板なら10年以上もこの工程を繰り返す。



- ③煙で真っ黒になった板をかんなで削り、木目を確認する。

木目が荒いものは歯の荒い櫛に、木目が細かいものは歯の細かい櫛にする!



- ④丸ノコなどを使って歯作りをした後、トクサ(研草・表面がザラザラした植物)の皮で櫛の歯1本1本を何千回も磨き上げる「歯摺り」をする。



▲ 磨き上げた櫛は、頬にあてて感触を確かめる

# 職人さんに聞きました！

**Q** 櫛留商店の櫛と普通の櫛の違いは  
どんなところだと思いますか？

**A** 多くの人は、工場で大量生産された櫛しか知らず、櫛は簡単に手に入るものだと考えていると思います。ですが、櫛留商店の櫛はトクサを使って何千回も磨いて作られています。そのように丁寧に磨かれた櫛で髪をとくと、静電気が起こりにくく、髪が痛みにくいのです。



とくだけて髪がツヤツヤ、サラサラになるので、櫛留商店の櫛は、「究極の櫛」、「魔法の櫛」と言われることもあります。

**Q** どのような想いで櫛を作り続けているのですか？

**A** 仕事に関しては、「誰にも負けたくない、負けない」といつも思っています。というのも、プロの床山さん（力士や役者の髪を結う人）と仕事をするので、そういうた櫛一本で生活をしている人にも文句を言われない、言わせないという気持ちでこれまでやってきました。

今は一般の方への販売が多いですが、同じように一本一本手作りで、気持ちを込めて届けるというこだわりを持っています。

常に高い目標とこだわりを持って仕事を続けてきた森さん。何千もの種類があるといわれる日本の伝統的な髪型の文化を支えている責任を感じながら、櫛を作り続けているとのことです。



# くしとめ 櫛留商店の歴史と日本文化



くしとめ 櫛留商店は、初代である森留松さんが四日市で修業をしたのち、  
もりとめまつ 明治36年に創業し、昭和21年に北区に拠点を移しました。

くし 戦争が終わった直後であるこの時期は、生活の洋風化に伴い櫛の  
需要も激減していました。

ここで、2代目であった森健三さんは相撲と歌舞伎に  
注目しました。

力士や歌舞伎役者などの日本古来の髪型を結うために、  
くし 櫛は必要だと考えた2代目健三さんは、昭和30年の名古屋場所で  
支度部屋に何度も通い、櫛を作らせてほしいとお願いした  
そうです。

くし その誠意が認められ、相撲の櫛を作ることになった櫛留商店。  
くしとめ その信頼は3代目となった森さんの代まで受け継がれ、  
とこやま 髮を結うプロの床山さんにも認められています。

